

# リンゴ・モモ共通防除体系は経営者に導入メリットがある

福島県農業総合センター 企画経営部

## 1 部門名

農業経営 - 農業経営 - その他

## 2 担当者

半杭真一、引地力男、宮島聡、藤澤弥栄、永山宏一、安部充

## 3 要旨

リンゴ・モモの樹種複合経営において、省力化とドリフト対策を目的として薬剤を共通化する共通防除体系を実証した結果、薬剤費と防除回数ともに慣行防除体系より少なくなり、経営者にとって導入のメリットが存在することがあきらかとなった。

なお、省力化とドリフト対策という目的は、共通防除体系は経営者の技術ニーズとも合致している。

- (1) リンゴとモモを想定した共通防除体系を提示して経営者による評価を調査した結果、「年間の防除回数が減るので省力的」「ドリフトの懸念が少なくなる」「異なる樹種に続けて散布できる」という特徴が経営者の技術ニーズと合致している。
- (2) 経営類型について、複数の樹種の組合せである場合のほうが、単作の場合に比べて共通防除体系の評価は高く、普及のターゲットは複合果樹経営であると考えられる。
- (3) 完成した共通防除体系は、慣行の防除体系に比べ薬剤費・防除回数とも少ないため、経営上のメリットがある。
- (4) 共通防除体系によって生産された果実については、薬剤での防除に対して消費者がもつマイナスイメージと消費者に対する伝達の困難性から、この技術を用いたことのみでは販売面での差別化要因とはならない。

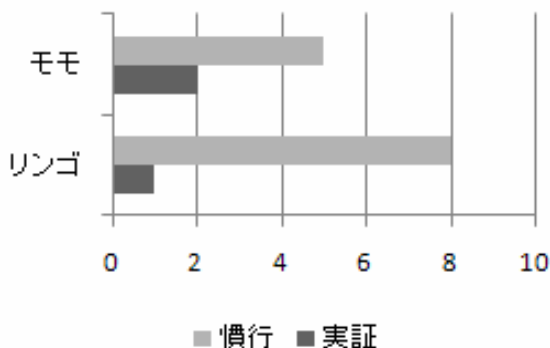


図1 リンゴ・モモ相互に問題のある散布回数

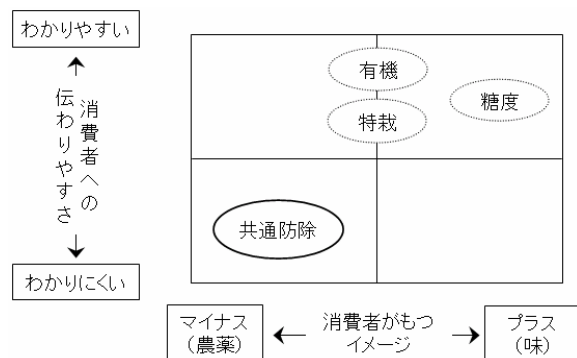


図2 共通防除体系による差別化可能性の概念図

## 4 主な参考文献・資料

なし